

プロ野球選手のセカンドキャリアサポートについての考察 ～野球界発展に向けて～

A study on the new approach of career passes support system of professional baseball players ～For the development of the baseball world～

1K04B174-4

長谷部 舞

指導教員

主査 宮内孝知先生

副査 木村和彦先生

目的

本論文の目的は、プロ野球選手が安心して次のキャリアに移行できる環境をつくるために、2007 年秋より開始された社団法人日本野球機構によるセカンドキャリアサポートにおける、よりよい支援方法を模索し、野球界の発展を目指すことである。

他のことを犠牲にして、野球に人生の大半の時間を捧げてきたプロ野球選手にはプロ野球界で生き抜く力はあるが、他のビジネス界で活躍することを考えたとき、どれほどの評価を与えられるのか。

調査開始前、支援方法の在り方として、以下、2つの仮説をたてた。

仮説(1)「ファンサービスを考え、行いう力は、一般企業でも企画力として応用できる力である。つまり、プロ野球選手は企画部で能力を発揮できるのだ」

仮説(2)「2軍を独立採算制にする。これにより、1軍に比べ実力の劣る2軍の選手の給与は下がるが、一般的な感覚が身に付き、引退後の生活にギャップを感じる事がなくなる」

本論文では、これら2つの仮説を検証するとともに、調査をする中で得られた支援方法に関する新しい見解を示していく。

方法

本論文の目的を達成するために、研究方法は、文献及びインタビュー調査による。

インタビュー調査は、インダス株式会社の安藤祐輔、株式会社インテリジェンスの鈴木理裕、同山内一将、社団法人日本野球機構の手塚康二、株式会社リクルートエージェントの柴真樹の各氏に実施した(社名 50 音順)。

そこでは、主に、①プロスポーツ選手の印象、②プロ野球選手の印象、③アスリートと非アスリートの違い、④プロ野球選手のセカンドキャリア、⑤プロスポーツ選手のセカンドキャリアサポートについて質問をした。

なお、インタビュー調査票はそれぞれの企業で実施されているプロスポーツ選手へのセカンドキャリアサポートの内容から、異なるものを用いた。

結果

仮説(1)の検証:インタビュー調査を通し、企業がプロスポーツ選手に期待していることは、「目標達成能力」や「向上心」などのライフスキルであるということ、プロスポーツ選手のセカンドキャリアへの移行は、即戦力ではなくポテンシャルが重視される第二新卒の転職と同じように捉えられているのだということがわかった。また、元選手にとって営業という職種は、基本給プラス出来高払いという給与スタイルが性分に合っていることに加え、元プロ野球選手という看板は時に営業上の武器になるという。以上より、元選手にとって営業職は適職であると感じた。確証を得ることはできなかったが、仮説(1)の答えを企業側も選手側も企画部での活躍をそれほど望んでいないようだ結論付けた。

仮説(2)の検証:インタビュー調査により、プロスポーツ選手が引退後、犯罪に手を染めてしまう理由に関して「ギャップ」というキーワードが得られた。手塚氏がそのような選手について、「現役選手時代の裕福な生活が忘れられずに、借金を重ね、何らかの罪を犯してしまうケースもあるのではないか」と分析するように、入団時に多額の契約金を手にするプロ野球選手は、引退後の生活に適應することが困難なのであろう。一般的な金銭感覚を持ちながら生活するという経験は「ギャップ」を解消するために有用だと考える。また、江本孟紀氏は、二軍を独立採算にすべきとした上で、プレーだけで観客を満足させることができない二軍の選手は、ファンサービスで足りない分を補う必要がある、との考えを述べている。以上の考察から、仮説(2)は、今後のセカンドキャリアサポートの展望、そして野球界の裾野拡大というメリットを考慮した上でも、有効であることが実証できたと言えよう。

また、新しいサポート方法として、野球界全体を統括する組織をつくること、新人研修会の充実、情報を広く伝える仕組みをつくることを提案した。

考察

まだ始まったばかりのセカンドキャリアサポートにおいて大切なことは、どの世界でも活躍できる元選手の存在を社会にアピールすることである。セカンドキャリアサポートの充実、野球界の裾野拡大そして、競技力向上にもつながるはずだ。